

登録コード	E4350901	開講年度	2026				
授業科目	初等音楽科指導法基礎 B					担当教員	桐原 礼
英文授業名	Music Teaching Methods in Primary School					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・2時限	対象学生	
講義室	共通教育 7 1 講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観						
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能						
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	小学校音楽科の基礎的な知識を獲得するとともに、音楽科授業の実践的な指導力を向上させることができる。						
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンス、音楽科授業とは 第 2 回：楽典・指揮法の基礎、歌唱共通教材 第 3 回：弾き歌いおよびリコーダー実技について 第 4 回：歌唱指導のポイントと活動の例 第 5 回：器楽指導のポイントと活動の例 第 6 回：音楽づくりの指導のポイントと活動の例 第 7 回：鑑賞指導のポイントと活動の例 第 8 回：学習指導案作成について 第 9 回：受講生が作成した音楽科学習指導案の発表と討議 第10回：小学校学習指導要領「音楽」の概要 第11回：初等音楽科におけるICTの取り扱いほか今日的な課題 第12回：日本の音楽教育の歴史 第13回：リコーダー実技試験 第14回：初等音楽科教育法のまとめ、授業アンケート 教育実習で欠席した学生がいる場合は、個別に課題を提示し、提出を求める。 オンライン授業（同期型・非同期型）の教育的効果が見込まれる内容については、オンラインで実施する場合がある。						
(6)成績評価の方法	小学校音楽科の指導案提出が35%（ ），リコーダー実技試験が35%（ ），学習指導案および実技の発表に関わる評価が20%（ ），提出物および授業への参加状況を10%（ ）とし評価する。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。						
(7)成績評価の基準	（ 4 ）の の知識および , の表現力に関わる評価が極めて高くかつ が極めて高い評価だった場合は「卓越している」, の知識および , の表現力に関わる評価が高くかつ が高い評価であった場合は「かなり上にある」, の知識および , の表現力に関わる評価が一定水準以上かつ の評価が標準的であった場合は「やや上にある」, の知識および , の表現力に関わる評価が水準にありかつ について標準的であった場合には「標準にある」と評価する。						
(8)事前事後学習の内容	学習指導案の発表の準備は授業時間外で行う必要がある。また、リコーダー実技試験に向けて、早い段階から個人練習をすすめておかなければならない。授業で扱った内容について、毎回の復習が重要である。 この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(9)履修上の注意	各グループで行う学習指導案の発表実施に向けて、早い段階から活動内容を具体的にイメージし、指導案や掲示物作成などの準備をすすめること。また、リコーダー実技は初心者でも演奏可能なレベルの課題であるが、試験にて合格ラインに達するよう、授業時間外に十分に個人練習をすすめておく必要がある。 器楽および音楽づくりの活動においては、全員がソプラノリコーダー（アルトリコーダーは認められない）を使用するため、各自あらかじめ準備しておくこと。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	研究室（N411）にて随時。 kiriaya@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	本多佐保美 他『新版 小学校音楽科教育法』（教育出版）2020年。						
【参考文献】	文部科学省『小学校学習指導要領解説』（東洋館出版社）2018年。 ICT活用について：https://www.mext.go.jp/content/20201110-mxt_jogai01-000010146_008.pdfほか その他、適宜紹介し、必要に応じて資料を配布する。						